

木造ハウジングコーディネーター資格試験 活用報告

入社内定者の学習機会として 木造ハウジングコーディネーター資格制度を活用

タカノホーム株式会社

業務推進部 人財開発室 係長 松井 孝平さん
業務推進部 人財開発室 主任 山林 さおりさん

今回は「木造ハウジングコーディネーター資格試験」の活用事例について、タカノホーム株式会社(本社=富山県富山市今泉西部町7-1、高野二朗社長、1種B会員)の業務推進部人財開発室の松井孝平さん、山林さおりさんにインタビューをお願いしました。竣工したばかりの木の香りが漂う本社研修センターにおいて、お二人に木住協の制度を活用した人材育成への期待と可能性について語っていただきました。

入社前研修として昨年より内定者への資格試験を推進

——毎年、木造ハウジングコーディネーター資格試験をご活用いただけていますが、特に入社内定者への資格取得を勧められていると伺っております。この辺りの経緯についてお聞かせください。

◆松井さん 昨年から入社前研修として、入社内定した学生への木造ハウジングコーディネーターの資格取得試験を活用させていただいております。これから木造住宅にかかわる仕事を始めようとする学生にとっては、基礎から総合的に学べる学習機会が得られることは、とても大きなことだと思います。入社以前の12月に木造ハウジングコーディネーターの資格を取って4月に入社し、半年後の10月に宅地建物取引士などの上位資格を取るというのが、ある意味で理想的な新入社員のステップアップの流れなのかな？と思っています。

——近年では、入社内定者への資格取得を勧める企業も増えています。学生時代になかなか木造住宅について学ぶ機会がないので、木住協として本年度より学生コースというものを新設させていただきました。講習会、テキスト、試験を含めて学習で参加できる仕組みです。もちろん、内定

者も含まれますので、名簿を提出していただければ本部の方でフォローさせていただきます。

◆松井さん 当社は、社員の資格取得に力を入れている会社ですし、また、学生自身も早期にポテンシャルの高い資格を得たいという志向が高まっています。そういう意味では、木住協のこの制度は願ってもないものだと思います。

——御社では内定者全員が資格試験の対象だったのでしょうか？

◆山林さん 昨年の内定者8名のうち7名が資格試験を受けています。当社の場合、採用が木造住宅部門とゼネコン部門に分かれております。ですから、ゼネコン部門に内定した1名については見合わせさせていただきました。

◆松井さん ゼネコン部門に採用された新入社員にとっても、入社後に施工管理技士の学科試験を受験するケースが多いわけですが、それ以前にゼネコンについて基本から総合的に学べる登竜門的な学習機会があれば良いのになあ、と感じています。



業務推進部 人財開発室 係長 松井 孝平さん(後)
業務推進部 人財開発室 主任 山林 さおりさん(前)



本社研修センター

技術編・営業編をバランス良く学べる良き機会

——入社後の所属については、採用の時点で営業職、技術職に決まっているのでしょうか？

◆山林さん 当社の場合、営業職か技術職か、面接の段階で希望をもらっており、新人は希望した職種に配属されることになっています。

——木造ハウジングコーディネーター資格は技術編・営業編に科目が分かれていますが、営業系内定者にとって技術編は専門的すぎるとか、技術系内定者にとって営業編の内容はピンとこないとか、こうした声が上がったりはしていませんか？

◆松井さん どの業界でも専門的な知識を持った営業というのが一番求められているものです。当業界においても木造住宅についての技術的知識がなければ、第一線の営業として通用しなくなってきました。同時に、技術職の仕事でも営業についての基本知識や心構えを身に付けておかなければいけない現状です。技術編・営業編がバランス良く同時に学べるのは良いことだと思います。

——内定者以外にも受験されている方が何人かいらっしゃいますよね？

◆山林さん これまでは、入社一年目のタイミングで受験することになっていましたので、昨年は新卒組も受験しましたし、第二新卒といわれる異業種からの転職組もいっしょに受験することになりました。

——受験後のフォローアップなどは実施していますか？

◆山林さん まずやらなければならないのは、昨年落ちてしまった人のための再チャレンジへのモチベーションアップですね。

◆松井さん 東京、大阪、愛知の大都市で実施している対面講習会では参加者の人員が把握しやすいでしょうが、地方ですとWeb収録を各自で視聴することになりますので、一人ひとりの取り組みについて目を配るのは難しいですね。10月以降のWebによるテキスト学習についても、自主的な取り組みになりますので、やっている人はやっているのかもしれませんが、皆がきちんと学んでいるのか、とても気になるところです。



——Webによるテキスト学習へのフォローについては、何かもうひとつ知恵を絞る必要があるかもしれませんね。

◆松井さん それと昨年は人数が多かったので試験会場への予約受付でバタバタしてしまいました。富山会場の定員が15名、当社だけで10数名受験しましたので、予約が遅れてしまった人を石川会場に割り振ったりしました。

——内定者で今回受験された方から寄せられた感想などがあつたらお聞かせください。

◆松井さん 当社では、新入社員は名刺に初心者マークが付けられるのですが、その横に「木造ハウジングコーディネーター」という肩書きができてうれしかったという声がありました。お客様との会話のきっかけになれば良いですね。

——最後にお二人の木造ハウジングコーディネーター資格の受験体験もお聞かせください。

◆山林さん 私は、入社一年目研修ということで新卒の時に受験しました。数年経った後に、今さら先輩に聞けない技術的なことについて、テキストをめくって自分で調べてみる機会が何回かあって、助けられた記憶があります。

◆松井さん 私は異業種からの転職組でしたので、入社して最初の年に受験しました。この業界で仕事をしていくにあたっての大切な通過点という印象でした。この時にひたすら頭に叩き込んだことが、いろいろな場面で役立っていますし、何よりも仕事を進めていく上での自信につながったと思っています。

竣工したばかりの本社研修センター内部は木の香りが漂う

